

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 4月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2274200662
法人名	株式会社 富士見プロジェクト
事業所名	グループホーム小芝の家
所在地 (電話番号)	〒424-0812 静岡市清水区小芝町2-13 (054-371-5655)
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年3月21日

【情報提供票より】(平成21年1月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 10 人/ 非常勤 4人/ 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り 2階建ての1階~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥69,000	その他の経費(月額)	¥13,000
敷金			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (¥90,000)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	昼食	
	夕食	おやつ	
または1日当たり ¥1,400			

(4) 利用者の概要(平成21年1月26日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低 69 歳	最高	97 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 健寿会山の上病院、小高整形外科・歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは東海道線清水駅から徒歩で10分圏内の住宅密集地にあり、家族の面会等にも利便が良い。昔ながらの小さな商店が点在し、利用者は気軽な買い物を楽しめる。また幼稚園や小、中学校も近く、地域密着型サービスに相応しい立地条件である。若く元気の良い職員とベテラン職員が良く協働し、明るい笑顔でサービスを提供しており利用者や家族の評判も良い。法人によるバックアップ体制も充実しており職員の離職や異動が少ないことから、馴染みの関係が十分に構築されている。職員や利用者の生き生きとした笑顔が観察できた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は全職員に回覧され、具体的な改善に向けた努力が重ねられた。また評価結果を冊子にして玄関に配置することで、家族や訪問者の閲覧にも供されている。前回評価後に管理者の交代があったが、全職員の協力により、評価を活かしたサービスの質の向上に向けて前向きに取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価には職員全員で取り組んでいる。評価票が職員全員に配布され、管理者が職員の意見をまとめて作成されていた。管理者と職員は共に外部評価の持つ意味を良く理解しており、評価を有効に活かしたサービスの質の向上に向けて、前向きな努力を重ねている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>管理者の努力により、定期的に運営推進会議が開催されていた。会議には地域包括支援センター職員や民生委員、自治会長や老人会、婦人会役員も参加しており、ホームの職員や家族との活発な意見交換が実施されている。ホームからは運営状況が報告され、地域住民からは質問や自治会の情報が提供される等、地域との良い交流の場となっている。また家族からの意見を聞く場ともなっていた。会議での意見は全職員に伝達され、迅速にサービスに活かされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関にはご意見箱を設置しているが、職員は家族との自然な会話から意見を引き出す努力をしており、利用者や家族が意見を表明しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。家族の意見や要望は日々の申し送りにて迅速に全職員に伝達され、日々の業務に活かされている。外部の苦情や相談の受付窓口は重要事項説明書に明記されていた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の行事や祭事、防災訓練等にも積極的に参加している。また地域の小、中、高校生の福祉体験の場にも活用されている。ボランティアも積極的に受入れており、ホームの行事には地域住民が気軽に参加している。散歩や買い物時には利用者と住民が笑顔で挨拶を交わしており、地域との交流が深まっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は10ヶ条の職員憲章として示されている。またホーム独自の理念として「安全、安心、楽しさ、ゆとり」を掲げており「利用者本位の支援」と併せて職員の規範となっている。地域密着型サービスの2つの理念のうち「家庭的な環境」は重要事項説明書に記載されていたが、「地域との交流の下」が明記されていなかった。	○	運営者は、地域密着型サービスの2つの理念「家庭的な環境」、「地域との交流の下」を関係書類に明記し、利用者、家族、職員が共有する理念として明示する事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員がホームの理念を常に共有できるよう配慮している。理念は各ユニットごとに掲示され、折々に唱和されている。また朝夕の申し送りや定期、不定期に実施されるカンファレンス、全体会議等を通じて、理念をサービスに活かす具体的な取り組みが検討、実施されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事や祭事、防災訓練等にも積極的に参加している。また地域の小、中、高校生の福祉体験の場にも活用されている。ボランティアも積極的に受入れており、ホームの行事には地域住民が気軽に参加している。散歩や買い物時には利用者と住民が笑顔で挨拶を交わしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は全職員に回覧され、具体的な改善に向けた努力が重ねられた。また評価結果を冊子にして玄関に配置することで、家族や訪問者の閲覧にも供されている。今回の自己評価にも職員全員で取り組んでおり、評価を活かしたサービスの質の向上に向けて前向きに検討している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者の努力により、定期的に運営推進会議が開催されていた。会議には地域包括支援センター職員や民生委員、自治会長や老人会、婦人会役員も参加しており、ホームの職員や家族との活発な意見交換が実施されている。会議での意見は全職員に伝達され、迅速にサービスに活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は報告書や困難事例等について常に行政に意見を求めており、市担当者との積極的な交流に努めている。またホームの体制として、市が主催する研修や講習会には出来るだけ参加するよう配慮している。法令等を遵守し、常に行政と共にサービスの質の向上に取り組む姿勢を持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでは利用者の健康状態や生活については迅速に報告を実施してきたが、「ホーム便り」の発行には至っていなかった。管理者は新しい報告方法として「ホーム便り」の作成に着手しており、担当者による個別の近況や写真を添えて毎月家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見箱を設置しているが、職員は家族との自然な会話から意見を引き出す努力をしており、利用者や家族が意見を表明しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。家族の意見や要望は申し送りにて全職員に伝達され、日々の業務に活かされている。外部の苦情や相談の受付窓口は重要事項説明書に明記されていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職がほとんどないのがホームの大きな特徴である。管理者の交代はあったが、現管理者もホーム開設時からの職員である。また運営者は職員の福利厚生に努めており、職員間の人間関係も良好である。ホームでは職員が2ユニット全体でローテーション勤務しており、利用者との馴染みの関係が構築されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員に対して外部研修等の情報を的確に提供している。管理者は職員各々の適正を良く把握しており、職員の能力に合わせた研修を積極的に受講できるよう配慮している。また研修に参加した職員がホームにて伝達研修を実施することで、情報を共有できる体制を持っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの主催する同業者交流は管理者レベルの意見交換に留まっている。また管理者や職員の知人を通じた個人的な同業者交流はあるが、地域の同業者交流やネットワークと言えるような発展的な交流ではない。	○	地域の同業者が職員や利用者も含めて互いに交流し、相互に学びあう姿勢から得るものは大きい。今後はホームが地域の同業者交流推進の核となり、活躍する事が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込みがあれば、利用者や家族に見学を依頼し、十分に説明し納得した上で利用を心がけている。また希望があれば自宅訪問面接も実施している。見学時には居間にてお茶の時間を共有する事も出来る。またホームで食事を摂ることも可能となっており、利用者が馴染みながらサービスを利用できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は家族のように共存し、一方的な介護関係ではなく、お互いに支えあう雰囲気を大切にしている。職員は利用者の言葉使いや気遣いを学び、何事にも一生懸命に取り組む姿に感銘を受けていた。利用者には能力に応じて食後の片付けや雑巾縫い等の家事を担い、役割意識を持って生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時には、センター方式のアセスメント票を用いて利用者の希望や意向等を把握している。また職員は日常のコミュニケーションの中から利用者の思いや希望を把握し、支援に努めている。意思の疎通が困難な利用者にはカンファレンスを実施し、家族とも良く相談しながら本人本位な生活となるよう配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、アセスメント票を基に利用者の課題や希望を勘案し、利用者本位の介護計画となるよう、十分なカンファレンスを重ねて作成されている。また毎月のカンファレンスには、職員に加え栄養士や看護師も参加しており、家族の意見も反映するよう配慮されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に評価されており、利用者の状態に変化があれば、必要に応じて計画内容を更新している。評価は家族にも説明され確認も得られていた。また計画の更新時には再度アセスメントが実施されており、常に現状に即した介護計画となるよう、家族や職員、関係者とのカンファレンスが重ねられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人のバックアップにて車両の借用が可能となっており、受診の支援や外出、行事に利用できる体制がある。また近隣のデイサービスとの提携による交流があり、利用者の楽しみとなっている。希望があれば家族の宿泊や食事の提供にも対応しており、事業所の機能を活かした柔軟な支援体制を持っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続やホームの提携医への主治医変更は利用者、家族が自由に選択しており、適切な医療を受けられるよう支援している。また、法人の訪問看護師が1週間に1回利用者の一人ひとりの健康管理を注意深く記録してくれる。協力医の整形外科や歯科医も往診してくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化には充分対応しており職員の意識も高い。また医療行為が発生した時点にて家族との話し合いの場を持っており、運営法人の母体である病院に移行する旨の説明をしている。本人や家族には十分に説明され同意を得ているが、重度化に対応するためのマニュアルや同意書等が整備されていない。	○	高齢者は急激な病状の変化を起こしやすいため、急変時に職員の拠り所となるマニュアルや、医療行為が発生した場合の対処、家族等への連絡方法等、ターミナルケアに対するホームの指針等について検討を重ね、整備していく事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、カンファレンス等にて職員の意識向上に取り組んでおり、日々の言葉使いや対応等、利用者の尊厳を守り、プライバシーを損ねる言動がないよう努めている。個人情報書類は施錠出来るロッカーに保管されており、職員は食堂のカウンターを利用して、利用者の目に触れないよう業務日誌等を作成している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日々の生活における利用者のペースを大切にしている。ホームの都合や予定を優先するのではなく、利用者一人ひとりの思いに配慮しながら柔軟に対応している。利用者はテレビや会話を楽しみ、買い物や散歩、自室でのコーヒータイム等、その人らしい生活を送っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立やカロリー計算等は運営法人の栄養士の支援を受けており、普通食が困難な利用者にはトロミ食等の介護食にも対応している。職員と利用者は、共に力を合わせて食事の準備や盛り付け、片付けを楽しんでいた。また季節の外食も利用者の楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はほぼ隔日に実施されている。浴室は1階に位置しているため、入浴時間が1、2階の利用者が交流する機会にもなっていた。浴室は広く、左右に2つの浴槽があり、利用者の希望に沿って順番を決めているが、仲の良い利用者が一緒に入浴することも可能となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験や能力を活かし、食事の盛り付けや下膳、洗濯物たたみや掃除、ぞうきんがけ等、利用者各々が力を発揮できるよう支援している。裁縫が得意な利用者は自作のちゃんちゃんこを着ており、職員の賞賛を受けている。またホームが提供する多様なレクリエーションが良い気晴らしとなっていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは駅に近い市街地にあり、散歩時には近隣のコンビニや菓子店、スーパー等での買い物も楽しみである。また祭りの時期には屋台や七夕飾り、灯籠流しを見物する等、日中だけでなく夕方の外出も支援している。季節の遠足も実施しており、利用者は外出する楽しさを充分味わっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアの重要性を良く理解しており、日中は玄関のドアを開け、開放的な雰囲気を大切にしている。また居室のドアは施錠できない仕組みとなっていた。事務所は玄関に近く、管理や見守りに適しており、外出した利用者には職員が付き添い、危険防止に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回実施している。また職員は避難誘導に力を入れており、ホーム独自の訓練として、2階利用者の避難の所要時間を計ることで職員の防災意識を高めている。玄関や廊下にはヘルメットや防災頭巾が常備され、非常食や飲料水の備蓄も確認できたが、地域住民の協力体制が不十分である。	○	夜勤帯等、緊急災害時には地域住民の協力体制が不可欠である。運営推進会議等を有効に利用し、自治会や近隣住民との協力体制を早期に確立する事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列法人の病院に勤務する栄養士により、栄養バランスの良い献立が提供されており、利用者のレベルに応じた食事形態にも対応している。食事の摂取量も的確に記録されており、脱水症状を防止するための取り組みも実施されていたが、水分摂取量の記録がなかった。	○	利用者一人ひとりの水分摂取量の記録は急変時の受診資料にも利用できる。日々の過不足を把握し確認するため、利用者全員の水分摂取量の記録が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く開放的な雰囲気である。居間や廊下の壁には近所の写真好きな方の作品が掲示されており、利用者が行楽に出かけた時の写真と一緒に飾られていた。また椅子やテーブルが配置されたコーナーには、季節の飾りや花が生けられており、利用者が自然に集い、テレビを見たり、気軽な会話を楽しめるスペースとなっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は清潔に保たれ、危険がないよう整理されていた。利用者は使い馴れた家具や馴染みの日用品、テレビ等を持ち込んでおり、長年使いこまれた裁縫箱が大切に置かれた居室も見られた。職員は利用者が各々その人らしい個性的な居室にて居心地良く過ごせるよう配慮している。		